

報特幡八

平爐は完全

破壊は風説のみ

工場のため平爐を築くことに決つた後、平爐二十七个の内二十五個まで使用に堪へざる如く其完全に使用し得るは僅かに二個のみなりこの説を信ずるものあるより製鐵所兩部並に信譽を損したるに決して斯る真實なきし風説の如く平爐の殆んど全毀が使用に堪へざることとなりたらんには製鐵所の作廢は不可能となすことに決し製鐵所には非常な困難のみがこれかたため我が市場に大變動を來たさしむるに至るべく斯くの如き風説の起ることは製鐵所として非常に迷惑なり現在製鐵所には二十五萬噸二十三、五十萬噸六あり孰れも完全に使用に堪へざるが如き事なきを期せり

調停者遂に出づ

大日本國粹會の斡旋

大日本國粹會東京支部總會式列席のため東京中なりし小倉市五軒組主任五軒辰次郎及び下關市の伊東徳松の両氏は八幡製鐵所の職工大同盟事業事件を耳にし急遽歸來八日午後來船し製鐵所側職との間に立て調停の努力を執らんことを志し八幡市消防組合岡本三木蔵氏と共に先づ八幡製鐵所に警察部長及及び野村署長を訪問し事件の經過並に意見を聴き更に労及資幹事の意見を聴く可く午後三時労友會及び友愛會幹事を訪問したるも始勞友會及び友愛會は合同して事件經過の報告をなしたる際なりしを以て両氏は止むなく更に中川次長の意見を聞くべく製鐵所に至り中川次長に意見を申合ふたり

調停を拒絶す

中川次長延期を求む

中川次長に意見を申し込ましたる右野村署長伊東徳松兩氏は午後四時次長に意見を陳べり大日本國粹會の設立主旨を述べ陳べり

答来る

自來水の供給問題

一本凝結

五十六名

理の餘りに

七日午後四時に至り九名を解し他は全部釋放されしに

今回の如き大

一行金五拾五圓

一行金五拾五圓

年 月 日 年 月 日 年 月 日 年 月 日

長仁自

- 長仁自、長五郎、長次郎、長三郎、長四郎、長五郎、長六郎、長七郎、長八郎、長九郎、長十郎、長十一郎、長十二郎、長十三郎、長十四郎、長十五郎、長十六郎、長十七郎、長十八郎、長十九郎、長二十郎、長二十一郎、長二十二郎、長二十三郎、長二十四郎、長二十五郎、長二十六郎、長二十七郎、長二十八郎、長二十九郎、長三十郎、長三十一郎、長三十二郎、長三十三郎、長三十四郎、長三十五郎、長三十六郎、長三十七郎、長三十八郎、長三十九郎、長四十郎、長四十一郎、長四十二郎、長四十三郎、長四十四郎、長四十五郎、長四十六郎、長四十七郎、長四十八郎、長四十九郎、長五十郎、長五十一郎、長五十二郎、長五十三郎、長五十四郎、長五十五郎、長五十六郎、長五十七郎、長五十八郎、長五十九郎、長六十郎、長六十一郎、長六十二郎、長六十三郎、長六十四郎、長六十五郎、長六十六郎、長六十七郎、長六十八郎、長六十九郎、長七十郎、長七十一郎、長七十二郎、長七十三郎、長七十四郎、長七十五郎、長七十六郎、長七十七郎、長七十八郎、長七十九郎、長八十郎、長八十一郎、長八十二郎、長八十三郎、長八十四郎、長八十五郎、長八十六郎、長八十七郎、長八十八郎、長八十九郎、長九十郎、長九十一郎、長九十二郎、長九十三郎、長九十四郎、長九十五郎、長九十六郎、長九十七郎、長九十八郎、長九十九郎、長百郎